



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2018年1・2月
第320号

病院だより第320号 (2018年1・2月号)
発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 原田 浩史
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

2018年、戌年が明けました

藤が丘病院 病院長 高橋 寛

昨年(2017年)の年頭より日本医療機能評価機構の審査から始まり、10月には形成外科学講座が藤が丘病院に移設とともに昭和大学口唇口蓋裂センターの設置まで慌ただしい一年でした。



戌年の「戌」は「滅びる」を意味する「滅」で、草木が枯れる状態を表しているという見方もあります。しかし実際は「まもる」「植物が育っていき、花が咲き、実をつけ食べごろが過ぎた後、自分の身を落として本体の木だけは守る」という意味だそうです。昨年の酉年は「商売繁盛・収穫」の年とされていますが、戌は「守りの年」とされています。来年は亥年で突き進むための「戌」年は来年の準備期間と言えるでしょう。

電子カルテが稼働してから2年が経ちましたが、大きな問題もなく運用できました。腫瘍センターやプレストセンター、さらにリニアックの稼働も順調であったことから、これまでになく病院運営がスムーズに運用されたことは特筆すべきことでした。

診療体制の改革も大きな変化でした。近隣の開業医師からの紹介受け入れ態勢の改善などと相まって、藤が丘病院に対する評価が多いに高まり、昨年(2017年)の1月には青葉区医師会より感謝状をいただきました。4月からは土曜日が週日化され、外来診療や検査・手術を土曜日の午後も行うようになりました。救命救急部門は勤務体制に完全シフト制を導入したことで、医師の労働環境が見直された結果、救急車の受け入れ状況も大幅に改善いたしました。7月からは各診療科もシフト制を実施することで、より医師の過剰労働の改善が図られました。このような病院を挙げての努力により、9月には町田市消防署より救急医療への協力を評価され感謝状を戴きました。さらに今年1月5日に開催された青葉区の消防出初式で、防災および救急業務への協力を評価され、一般消防功労者部門において消防署長表彰を戴きました。

これまでの職員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今年も藤が丘病院の更なる躍進のために一層のご支援をお願いいたします。

2018年を迎えて

藤が丘リハビリテーション病院 病院長 市川博雄

2018年という新たな年を無事迎えるにあたり、近隣の先生方、病院のスタッフほか多くの方々のお力添えに感謝を申し上げます。



昭和大学藤が丘リハビリテーション病院はリハビリテーション科をはじめ、整形外科、内科、眼科といった診療科を擁し、入院病棟は一般病棟と回復期リハビリテーション病棟とがござい

ます。脳血管障害、整形外科疾患に対するリハビリテーションのほか、内部障害リハビリテーション、スポーツ整形外科にも力を入れておりますが、昨年末に藤が丘病院に口唇口蓋裂センターが新たに開設されたことに伴い、当院でもあらたに形成外科を標榜し、口唇口蓋裂患者の言語聴覚療法を開始しております。昨年来、リハビリテーション科の医師および、リハビリテーションセンターのセラピストも増員し、より充実したリハビリテーションの提供を目指し、回復期リハビリテーション病棟は全て回復期リハビリテーション病棟入院料1を取得してまいりました。本年も言語聴覚士を含めたセラピストの増員を予定しており、さらに充実したより質の高いリハビリテーションの提供を目指してまいります。

昭和大学藤が丘病院をはじめ、昭和大学附属の各急性期病院からリハビリテーション適応の患者さんを積極的に受け入れることにより、新入院患者数も増加してきておりますが、本年もその連携をさらに充実していくとともに、昭和大学関係以外の医療施設からの受け入れ、連携も推進してまいりたいと思います。

昨年は感染対策および医療安全の相互ラウンド等で高評価を頂いたほか、当院で診療を受けた方々からも様々なご意見を頂きましたが、至誠一貫の信念に基づいたより質の高い医療を提供できるよう努力するとともに、良き医療人の育成にも力を注いでまいりたいと思います。

この新しい年が皆様にとりましてより実り多き年となりますよう心より祈念致しまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

今季のインフルエンザについて

＜今季のインフルエンザ＞

今年は、冬季オリンピックの年であり、冬のスポーツが注目を浴びています。もう一つ、注目を浴びているものが…

今年はインフルエンザウイルスが生き残りをかけ A 型、B 型共に競い合い、定点観測上、更新記録を続けています。

とうとう、A 型(24.4%)を B 型(75.4%)が追い越し、流行を加速させています。

例年であれば、春先に流行する B 型が勢いを伸ばしているため、B 型の特徴に留意して予防を行う事が重要です。

当院でも患者さんを含め、職員のインフルエンザ報告の中には、かぜ症状のみで 37℃に達しないケース複数ありますのでかぜ症状の初期の段階から注意が必要です。

＜感染経路＞

感染者の咳やくしゃみによる飛沫を吸い込むことによって感染する「飛沫感染」や、飛沫がついた物に触れた手で鼻や口、目に触ってしまうことで感染する「接触感染」があります。

＜予防策＞

インフルエンザは前日より感染力(人にうつす力)があると言われて

いますので、A 型、B 型共に、感染を拡げないために、咳やくしゃみなどの初期症状からマスクを着用することが非常に重要です。

勤務中だけでなく、自宅でも予防は重要です。

- ・人ごみを避け、外出時にはマスクを着用しましょう。
 - ・帰宅時には「手洗い(B 型が多いため重要です)」「うがい」をしましょう。
 - ・栄養と休養を十分にとりましょう。
 - ・室内では加湿と換気、温度調整をしましょう。
- (インフルエンザは湿度 50%、温度 20℃以上で 20%以下に減少)



	A 型	B 型
流行シーズン	12 月～3 月	例年は 2 月～3 月 ※今季は A 型と同様
症状	強い倦怠感、全身の筋肉痛・関節痛、激しいせき、のどの痛み	・基本的には A 型と同じ ・下痢・嘔吐などの消化器症状が多い
感染リスク期間	発症前 1～2 日から	
発熱	38～40℃の急な発熱	・基本的には A 型と同じ ・熱が上がらないこともある
対象	人、鳥類など	人のみ

研究所発展の一助を担って

昭和大学スポーツ運動科学研究所 事務室 山村 勇一

平成 27 年 4 月に発足した昭和大学スポーツ運動科学研究所は今年 4 月には 4 年目を迎えます。現在の構成員は所長含め専任教育職員 4 名、事務員(兼務含む)2 名、派遣職員 1 名となっています。

事務室での業務は多岐にわたります。主なものとして、大東建託アスリート支援プロジェクト対象選手と日本体育大学ラグビー部員、プロ野球団千葉ロッテマリーンズ選手に実施しているメディカルチェックの補助業務や横浜市青葉スポーツセンターとの連携プロジェクトである「あおば心臓リハビリ教室」に関わる業務、学術研究発表会準備、各実務者会議などがあります。また、これらは本学 4 学部、附属 8 病院、3 研究所からの兼担職員が連携しながら活動しているため、

研究・診療が円滑に進められるよう全学的な連絡調整業務も担っています。最近では、洗足学園音楽大学(川崎市高津区)との共同研究も行われるようになり、その連携窓口となって支援業務を行っています。



今後も更に研究所が発展していくその一助となれるよう日々業務に努めてまいります。ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

病院の顔としての外来

昭和大学藤が丘病院 外来 前田 うづみ

こんにちは。患者さんが病院に到着し、最初にかかわる部門としての外来は「病院の顔」と言われることがあります。開院当初より診療を開始してきた外来も、現在は、1階と2階のフロアに分かれて24の診療科で1日平均約1100名の外来患者さんの診療をさせて頂いております。

近年の在院日数の短縮化や地域包括ケアシステムの推進など、外来診療を取りまく環境が変化しており、急性期病院の外来でもその求められる役割が変わってきていることを実感しています。高齢の患者さんや医療依存度の高い通院患者さんも多いことから、私たち急性期病院の看護師も、もっと地域の医療、福祉の方々とコミュニケーションを取っていけるようにしなければと思っています。今後も、かかりつけ患者さんや地域医療機関の方々より安心して通院できる、任せられると言っていただけるような、外来を目指していきたいと思います。よろしくお願い致します。



第25回 藤が丘地域連携フォーラムを開催して

平成30年1月11日(木)当院にて第25回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。

平成23年9月から始まりました藤が丘地域連携フォーラムも今回で25回目を迎え、地域医療機関の先生方や関係者の皆様49施設75名、昭和大学藤が丘病院関係者108名の合計183名の方々にご参加いただき



ました。

今回は下記の2演題の講演を行い、活発な質疑がなされ、講演会に引き続き立食形式での懇親会を開催しました。懇親会会場では各診療科紹介パネル展示を行い、各テーブルとも、とても賑やかに会話が弾んでいました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。

なお、次回、第26回地域連携フォーラムは、平成30年4月12日(木)に開催を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。

〈講演会 次第〉

1) 新しい不整脈デバイス治療、リードスペースメーカーについて

昭和大学藤が丘病院 循環器内科 浅野 拓

2) 救命救急センターにおけるショック患者の対応

昭和大学藤が丘病院 救急医学科 佐々木 純

(藤が丘病院医療推進課 馬杉 朗子)

青葉区消防出初式で感謝状を頂きました

1月5日(金)、青葉公会堂で開催された「青葉区消防出初式 第1部表彰式」に藤が丘病院高橋病院長が招かれました。式典は横浜市消防音楽隊による金管五重奏の後、神港鷹職組合の方々による木遣り・纏振り込みが登場。ピリリと粋で情緒あふれる空気に会場が包まれたところで市歌斉唱・来賓挨拶・祝

辞と続き、本日のメインイベントである防火・防災に貢献した人や団体を表彰する表彰式が始まりました。今年は、地域を守る消防団の方や自治会、事業所など46名、21団体が表彰の栄に浴しました。昭和大学藤が丘病院は、一般消防功労者部門で消防署長表彰を頂きました。これは、日頃から安心・安全を願い、防火・防災に取り組んできたことが評価され、頂いた賞です。

(藤が丘病院管理課 高橋 良治)



ブラックジャックセミナーを開催しました

平成30年1月29日(日)午後、横浜市青葉区内の小学生5・6年生を対象に将来の医療を担う人材育成を目的とした体験型のセミナー「ブラックジャックセミナー(横浜市教育委員会後援)」を開催しました。

当日は多くの参加希望者から抽選で選ばれた40名が参加して行われ、内視鏡や腹腔鏡のトレーニング、皮膚の縫

合トレーニング、心肺蘇生法のトレーニング、超音波メスの体験など、最新の医療機器を使った体験に皆いきいきとした表情で取り組んでいました。



セミナーの最後には消化器・一般外科の田中教授より、「未来の医師認定証」と記念品が一人一人に手渡され、満足げな表情で受け取っているのが印象的でした。

今後も、将来を担う子供たちが、医療に関連する職種を目指すきっかけとなるような企画をしていきたいと考えております。



(藤が丘病院管理課 和田 洋一)

春の献立

藤が丘病院 栄養科

春の野菜はすこしほろ苦いですが、新たな息吹を感じます。そんな春を感じる献立を考えてみました。

1. 鯖の醤油麹漬け焼き

〈材料〉

さわら 1切れ

醤油麹 小さじ1

※醤油麹は麴を醤油漬けにして1週間くらいでできます

砂糖 小さじ半分

酒 小さじ2杯



さわらを調味液に漬け一晩おいて焼きます。付け合わせに大根おろしを添えます。

2. 菜の花とはまぐりの辛子和え

〈材料〉

菜の花 30g

はまぐり 3個

酒 小さじ1杯

辛子 少々

醤油 小さじ半分



菜の花は茹でておきます。

はまぐりは酒蒸しにして身を取り出しておきます。

酒蒸しで出た汁と辛子、醤油を合わせて和えます。

3. ふきと若布の煮物

〈材料〉

ふき 30g

高野豆腐 5g

若布 10g

塩 ひとつまみ

醤油 少々

だし汁



ふきと高野豆腐を煮て最後に若布を入れ一煮立ちさせ盛り付けます。

診療統計

2017年12月・2018年1月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2017年12月	2018年1月	2017年12月	2018年1月
外来患者数	28,984人 (1,260.2人)	26,937人 (1171.2人)	3,842人 (167.0人)	3,730人 (162.2人)
入院患者数	15,879人 (512.2人)	15,703人 (506.5人)	5,211人 (168.1人)	5,180人 (167.1人)
紹介率	81.8%	76.9%	65.4%	66.4%
逆紹介率	60.8%	60.0%	85.2%	72.0%

《広報委員会委員》

原田 浩史

池田 裕一

佐々木春明

市川 度

小岩 文彦

川手 信行

芳賀 ひろみ

辻本 さなえ

猪股 里美

岩城 馨

長沼美代子

下田 遥菜

岡部 圭吾

大塚 凌

高橋 良治

(順不同)